

平成22年度事業報告書

(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

平成22年度当財団の事業を「平成22年度事業計画書」に基づいて実施したので、その概要について報告します。

平成12年4月に「財団法人 青少年更生福祉センター」（昭和42年設立）および「財団法人 矯正福祉会」（昭和46年設立）を統合し、「財団法人 日立みらい財団」として発足して本年度は11年目であり、「社会を明るくする運動」や「地域活動」を中心とした民間のボランティア活動を重点支援する方針で事業を推進してきました。また、新公益財団法人制度への移行申請についても積極推進し、平成23年3月24日に公益財団法人として認定されました。

各事業の実施状況概要は以下の通りです。

記

1. 青少年健全育成の教育・研修・その他支援事業(第1号事業)

(1)「竹内基金」国際交流事業

①更生保護・矯正職員の海外研究

更生保護・矯正職員の海外研究派遣は、今年度なし。

②海外更生保護・矯正専門家招聘

海外更生保護専門家及び海外矯正専門家の招聘とも、今年度なし。

(2)“社会を明るくする運動”推進事業(子ども・いきいき・ネットワーク事業)

「社会を明るくする運動」は、平成22年度に60回目を数え、各種事業が全国的に展開された。

当財団では下記9地域の行事について助成した。

行 事	開催地	開催日	内 容 等
①探検！チャレンジしてみよう	北海道 滝川市	7月24日	野鳥や昆虫などの自然観察学習、工作教室への参加等を通して、豊かな心を育む。187名参加。
②“社会を明るくする運動”60回記念「子ども・いきいき・親子ふれあい・金魚すくい」	岩手県 盛岡市	8月7日	「金魚すくい」「ヨーヨー釣り」などを出店。祭りでの出店は暴力団関係が多い中、保護司が出店し、子どもたちに楽しんでもらうとともに、“社会を明るくする運動”の広報活動も行った。約800名参加。
③親子ふれあい工作教室	群馬県 太田市	8月22日	太田市内の家族を対象にウッドビーズや竹細工教室を開催、親子のふれあいを通じて家族の絆を深めてもらった。親子70名が参加。

④子ども・いきいき・親子ふれあい「ぬくもり教室」	茨城県 水戸市	6月20日	地域で活動している「木の文化塾」の協力を得て、小中学生とその父親が縁台作りを体験。その後、犯罪や非行についての講演を行い、自分で製作した縁台に座って聴講した。118名参加
⑤“社会を明るくする運動”～ふるさとぎふ～親子・いきいき・ふれあい塾	岐阜県 岐阜市	1月30日	地域に住む留学生と地域に住む親子が交流する機会(料理・スポーツ体験等)を設け、親子のコミュニケーション、国や文化を超えた交流が出来た。 115名参加
⑥“すきやねんふるさとく清流復活をねがって>大和川七夕まつり”	奈良県 三郷町	8月7日	子ども達の健全育成取り組みの一環として、「三世代交流の場づくり」と、生涯に残る「夏休みの思い出づくり」を目指し夏祭りを開催。約1300名参加。
⑦みんな仲良、みんな仲間、親子でふれあいキャンプゲーム	鳥取県 鳥取市	8月21日	町内の小学生親子を対象に、キャンプやゲームを通じて親子のふれあいや地域住民との交流を行った。64名参加。
⑧未来を担う子どもたちに伝えたい遊びと“あいさつ”	愛媛県 西条市	9月25日	小学生親子を対象に、昔遊び(こままわし、おはじき、かるた、お手玉等)を教会場で開催し、地域との交流を図り、地域の年長者が挨拶の大切さを教えた。260名が参加
⑨「本当の友だちづくりシンポジウム」もっと知ってよ ぼくらの輝き	沖縄県 那覇市	9月26日	教育委員会との共催でシンポジウムを開催。子どもと大人の意見交換を行い、「元気のある、そして夢を語れる学校、地域社会づくり」を考え、学校・保護司・地域社会の連携を強化した。500名参加。

これらに要した費用は170万円。

(3)こども・みらい・サポート事業

本事業は、平成12年度までのボランティア研修キャンプ事業に替わる新たな事業として、平成13年度より計画・実施した。従来のボランティア研修キャンプ事業は全国BBS会員の研修が主目的であるのに対し、こども・みらい・サポート事業は地域の子どもの健全育成活動を実践することを主目的とし、BBS会員がこの活動を実践することでBBS会員の研修も兼ねた事業とした。

第10回である本年は、7月17日～19日にサントライ北見を主会場に、「想像の世界を造ろう！オホーツク・ウッド・ブロック」のイベントを実施。北海道内外から集まった子ども達とBBS会員が力を合わせウッドブロックに取り組む中から人への思いやりや仲間と助け合って物事を成し遂げることの大切さを学び、社会性豊かに成長してくれることを願って実施した。

小中学生・BBS会員スタッフ等107名参加し、盛況に事業を終えた。

これに要した費用は245万円。

(4)更生保護奨励賞事業

更生保護事業推進の一助に「更生保護奨励賞」を設け、法務省の推薦する功績が顕著であった更生保護女性会及びBBS団体に奨励賞盾と副賞を贈呈している。

平成22年度は、下記8団体に贈呈した。

(副賞は1団体11万円)

都道府県名	団体名	功績の概要
北海道	札幌西更生保護女性会	更生保護活動のみならず、地域との連携に力を入れた活動も展開しており、ボランティア団体や町内会と「連携し、ゴミ拾いや各種祭事等で地域における犯罪予防活動に積極的に関わっており、その功績は顕著である。
青森	十和田地区更生保護女性会	地元少年院の体育祭・文化祭に参加して少年と交流するなど、更生保護の心を伝え、非行のある少年たちの立ち直りを支援しており、その功績は顕著である。
群馬	群馬更生保護女性連盟	個々の会員意識向上や地区会相互の連携のため、連盟主催の研修会を開いたり、ブロック毎にモデル地区を指定し活動の支援をするなど、その功績は顕著である。
福井	越前地区更生保護女性会	犯罪や飛行を犯した人の立ち直りと、地域における犯罪予防のため、各種青少年健全育成活動や街頭補導活動、子育て支援まで実施し、その功績は顕著である。
滋賀	犬上地区更生保護女性会	研究会や児童自立支援施設への慰問、町内での防犯パトロール、地域子育て教室の開催など、関係機関と連携した積極的な活動を行い、その功績は顕著である。
広島	広島県更生保護女性連盟	県内関係団体と連携し、矯正施設入所中の少年の作品展示会の開催をしたり、記念講演会を開催するなど、構成保護を地域に広げる活動の功績が顕著である。
香川	善通寺地区更生保護女性会	子育て支援活動、街頭広報活動、更生保護施設への訪問活動、少年院での誕生会開催など、広範囲に渡った更生保護活動を展開し、その功績は顕著である。
長崎	島原更生保護女性会	児童養護施設における交流行事や、各地の民話を紹介する行事の開催、手延べ素麺頒布による収益金の寄付活動など、その功績は顕著である。

これらに要した費用100万円。

(5) 矯正施設被收容者の福祉援助

① 少年院対抗競技大会・文芸行事

各矯正管区内で行われる少年院対抗の各種スポーツ大会、コーラス大会、レクリエーション大会、文芸コンクール行事などにその運営費を助成している。

平成22年度は、下記12件の行事に助成した。

管区名	行事内容	実施日
札幌	管内被收容者美術・文芸等コンクール	10月
仙台	第26回管内少年院バレーボール大会	6月22日
	第36回東北ブロック書画コンクール	10月 7日
東京	第35回管内少年院剣道大会	7月 8日
	管内文芸等作品コンクール及び入賞作品展	10月～11月
名古屋	第33回管内少年院バレーボール大会	7月16日
大阪	管内少年院コーラス大会	11月11日
	被收容者文芸作品等コンクール	5月 ～ 9月
広島	第32回管内在院者剣道大会	7月 2日
	第39回管内文芸作品コンクール	6月 ～10月
高松	管内矯正施設文芸作品コンクール	8月 ～11月
福岡	管内文芸作品コンクール	9月

これらに要した費用195万円。

②被收容者の文芸作品集発行

各矯正管区ごとに行われている被收容者の絵画，随筆，詩歌などのコンクール作品集の編集，印刷に対し助成した。

管区	作品集	管区	作品集
札幌	「どさん子」 第34号 (成人編) (少年編)	大阪	「教育作品集2010」 (成人の部) (少年の部)
仙台	「文集みちのく」 (第31号成人編) (第32号少年編)	広島	「中国路」 第34号 (成人編) (少年編)
東京	「文芸等作品コンクール入選作品集」 (成人の部) (少年の部)	高松	「海」 第34号 (成人編) (少年編)
名古屋	「わらく」 第93号 (成人編) (少年編)	福岡	「文芸コンクール入選作品集」 (成人編) (少年編)

これらに要した費用393万円。

③矯正施設教育環境整備

矯正施設の教育環境整備として助成してきたが，平成15年度で計画施設一巡し終えたことから，平成16年度より事業休止とした。

(6)少年少女スポーツ育成大会の開催

第33回「竹内亀次郎記念杯 日立市少年少女スポーツ育成大会」を平成22年8月21～23日の3日間，日立市市民運動公園陸上競技場他9会場において開催した。少年野球，サッカー，バレーボール，ミニバスケットボール，バドミントンの5種目に合計1,227名が参加した。

平成13年度から，日立市の社会を明るくする運動実施委員会・保護司会にも後援をいただき，法務省が主唱し全国的に展開される「社会を明るくする運動」と協調した大会とした。

大会に要した費用205万円。

2. 出版援助調査研究事業(第3号事業)

矯正の効果を高めるため，昭和51年から矯正行政に関する各種研究，調査及びその出版等に助成してきたが，平成17年度より事業休止とした。

3. 関連諸機関との連携・協力・支援事業(第4号事業)

(1)地域活動推進事業

①更生保護女性会ミニ集会モデル地区事業

更生保護女性会が全国的に行うモデル地区の「ミニ集会」活動に助成している。

平成22年度は，日本更生保護女性連盟が選定した下記28モデル地区を助成した。

地方	都道府県名	地区会名
北海道	札幌	長沼更生保護女性会
	釧路	美幌更生保護女性会

東北	青森	三戸地区更生保護女性会
	岩手	宮古地区更生保護女性の会
	福島	喜多方地区更生保護女性会
関東	茨城	坂東市更生保護女性会
	栃木	小山市更生保護女性会
	群馬	伊勢崎地区更生保護女性会
	埼玉	八潮地区更生保護女性会
	千葉	栄町更生保護女性会
	山梨	鯉沢地区更生保護女性会
	長野	安曇野地区更生保護女性会
中部	富山	黒部市更生保護女性会
	石川	能美地区更生保護女性会
	三重	三重郡更生保護女性の会
近畿	京都	舞鶴東地区更生保護女性会
	大阪	守口地区更生保護女性会
	奈良	生駒市地区更生保護女性会
	和歌山	和歌山市更生保護女性会第5分会
中国	鳥取	日野地区更生保護女性会
	島根	鹿足地区更生保護女性会
	広島	広島佐伯地区更生保護女性会
四国	徳島	徳島市更生保護女性会
	香川	大野原更生保護女性会
九州	福岡	大牟田区更生保護女性会
	長崎	諫早更生保護女性会
	熊本	山鹿市更生保護女性会
	鹿児島	志布志地区更生保護女性会

これらに要した費用は270万円。

②BBSモデル活動事業

全国のBBS活動のうち、将来のBBS活動の指針となり、かつ青年ボランティアとしての特色を生かしたユニークな活動に対して助成している。

平成22年度は、日本BBS連盟が推薦した下記の12団体に助成した。

組織名	活動名称	活動内容等
青森県BBS連盟 弘前大学ティーンズ・アンド・ローBBS会	非行少年自立支援学ボラ活動から模擬裁判教室を通じた法啓発活動へ	模擬裁判教室(顧問の指導の下、裁判関係者にそれぞれが扮し模擬裁判を行う)を、県内の中高校等に出かけて行う「移動法廷」等を実施。
埼玉県BBS連盟 所沢地区BBS会	野球大会 in 西武ドーム	保護観察対象少年とともに野球大会を開いた。会場を埼玉県の野球少年のあこがれの場である「西武ドーム」にすることで、「夢をかなえること」を感じる機会とした。
静岡県BBS連盟 三島地区BBS会	2010年度関東地方学生会員交流研修会	NPO法人グランドワーク三島(環境保護団体)との環境保全活動(権兵衛川保全活動)を行った。また、同NPO会員と意見交換を実施した。
石川県BBS連盟 小松能美地区BBS会	優しい心を育む手作り絵本の読み聞かせ	夏休み期間中、手作り絵本の読み聞かせを行った。すでに同活動を実施してから2年が経過し、手作り絵本がかなり古くなってきているので耐久年数が長くなる上質絵本を創った。

愛知県BBS連盟 西尾市BBS会	グループワーク さつ まいも掘り&バーベキ ュー	保護観察中の少年とともに、農作業や調理を行っ た。
大阪府BBS連盟	一緒に学ぼう！交通研 修	鈴鹿サーキット交通センターで、BBS会員と保 護観察少年がともに学ぶことにより、安全運転等 について学習した。
和歌山県BBS連盟 和歌山大学BBS会	みんな集まれ！夜回り 運動	若者を中心に広く参加を募り、毎月2回(21時 から23時まで)夜回りを実施、集まったメンバ ーのネットワークを、今後も地域の問題解決の支 援のために、社会資本として活用できるようにし た。
島根県BBS連盟 浜田地区BBS会	通学合宿	小学校に隣接する公民館に宿泊し、BBS会員と 小学生と一緒に寝泊まりしつつ運動会、レクレ ーション食事づくりなど、多彩な行事を開催した。
愛媛県BBS連盟 今治地区BBS会	親子たこあげ大会	親子の心がふれあう機会として、親子たこあげ大 会を行った。
香川県BBS連盟	東川盆踊り大会	本年で4回目の盆踊り大会。主催はBBS。地域 の大人と子どもが交流する場として実施。広報も かね、多くの企業や関係団体からの助成を受けて 実施した。またこの盆踊り大会でのバザー(焼き そば)等の売り上げは、近隣にある乳児院に寄付 した。
福岡県BBS連盟 久留米・久留米大学B BS会	フリーマーケットをし よう！	保護観察を受けている少年達の就業問題の解決 の一助になるよう、フリーマーケットをとおし て、接客を始めとする様々な社会体験をBBS会 員とともに楽しみつつ学ぶ機会を創った。
佐賀県BBS連盟	響け！更生保護～社会 を明るくする運動60 周年記念行事	県内の大きな祭りを開催する場所で、県連BBS 会員総動員でチラシやグッズを配布して広報活 動を行った。また、その場に机やいすを配置して、 祭りに来た青少年らと言葉を交わす場とした。

これらに要した費用は280万円。

③地域自主活動事業

子ども達の健全育成や、地域住民への更生保護活動等のPRをめざし、平成19年度よりボランティア団体と連携し、自主活動イベントを開催。

東京都八王子市で凧作り・凧揚げの「親子ふれあい工作教室」を協賛実施し、12月4日118名、12月5日115名の参加を得た。

また、2月24日には、東京保護観察所立川支部において「紫翠苑公開シンポジウム」を協賛開催し、更生保護ボランティア・関係者、地域の方々など、約70名が出席された。

さらに、2月27日には更生保護施設「紫翠苑」にて、「匠」に学ぶワークショップ～シルバーリングを作ろう～を開催、被保護者とボランティアスタッフによる共同作業を通じて、青少年の健全育成を支援した。

これらに要した費用は40万円。

(2)更生保護ボランティア支援事業

①更生保護女性会中央研修

更生保護女性会は、更生保護女性会活動の一層の発展を願って、法務省の協力のもとに日本更生保護女性連盟及び日本更生保護協会と共催し、「更生保護女性会員中央研修会」を開催している。

平成22年度は、10月19日から3日間、全国から地区会の会長100名が参加し、東京・渋谷「ホテルフロラシオン青山」において開催し、「今、求められる更女活動とは～気づき、考え、行動する～」をテーマに講義やグループ形式での活動報告・討議をした。

これに要した費用は100万円。

②BBS会員中央研修会

日本BBS連盟では、毎年全国から会員を募り中央研修会を開催している。

平成22年度は、第51回BBS会員中央研修会を10月30日からの2日間、東京・千代田区「国立オリンピック記念青少年センター」において会員60名の参加で開催。「これからのBBS運動について」をテーマに、研修した。

これに要した費用100万円。

③更生保護法人等役職員中央研究会

更生保護法人全国更生保護法人連盟では、全国の更生保護法人等の実務を担当する役職員により当面する諸問題の研究協議等の事業を行っている。

平成22年度は、1月26日から2日間、東京「アルカディア市ヶ谷」において全国の更生保護法人役職員182名が参加し、研究協議を実施した。

これに要した費用80万円。

④更生保護施設支援事業

更生保護施設被保護者の社会復帰・自立にむけて、更生保護施設が行う地域住民等との交流レクリエーション行事に助成支援。平成15年度より新規事業としてスタートし、平成22年度は下記18カ所の更生保護施設に助成した。

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| ①函館／函館創生会 | ②仙台／宮城東華会 | ③宇都宮／尚徳有隣会 |
| ④東京／両全会 | ⑤長野／長野司法厚生協会 | ⑥東京／更新会 |
| ⑦横浜／まこと寮 | ⑧岐阜／岐阜県共助会 | ⑨福井／福井福田会 |
| ⑩京都／京都保護育成会 | ⑪山口／山口更生保護会 | ⑫松江／島根更生保護会 |
| ⑬高知／高坂寮 | ⑭福岡／TFG | ⑮長崎／南高愛隣会 |
| ⑯福岡／筑豊宏済会 | ⑰福岡／恵辰会 | ⑱鹿児島／草牟田寮 |

これらに要した費用90万円。

(3) 矯正関係団体、学会等への寄付・援助

① 教誨師中央研修会への援助

毎年、(財)全国教誨師連盟が実施する中央研修会を支援している。平成22年度は、第45回全国教誨師中央研修会が8月25日から3日間、法務省大会議室において実施され、全国から合計93名が参加。この運営費に助成した。

これに要した費用100万円。

② 全国篤志面接委員大会への援助

(財)全国篤志面接委員連盟が活動内容の充実と効果的指導方法について研究する第23回全国篤志面接委員大会が平成22年10月18日、法務省大会議室において実施され、全国から合計116名が参加。この運営費を助成した。

これに要した費用100万円。

③ 矯正ボランティア支援事業

矯正施設内で活動している矯正ボランティアの育成・指導技術向上を図るための研修に助成支援。平成15年度より新規事業としてスタートし、平成22年度は8つの矯正管区の管内篤志面接委員研究協議会の研修に助成した。

これに要した費用200万円。

④ 学会などへの寄付

犯罪に関する各学会の活動やその他の団体に援助を行っている。

平成22年度も次の学会・団体に寄付した。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| ① 日本矯正医学会 | ② 日本犯罪心理学会 | ③ 日本犯罪社会学会 |
| ④ 日本矯正教育学会 | ⑤ 日本犯罪学会 | ⑥ 日本司法福祉学会 |
| ⑦ 日本被害者学会 | ⑧ いのちの電話 | ⑨ 茨城いのちの電話 |

これらに要した費用90万円。

⑤ スtockホルム犯罪学賞表彰事業への支援

スウェーデン法務省の後援を受けて、犯罪学分野の国際賞「Stockホルム犯罪学賞」が創設された。この賞は、犯罪研究に優れた業績、もしくは、研究結果を応用して犯罪の低減と人権尊重に貢献した方に贈られるものです。Stockホルム犯罪学賞の第一回授賞式は平成18年6月にStockホルム市庁舎で行われた。当財団は、平成18年度に500万円助成支援した。

平成22年度についても、平成21年度と同様、100万円助成支援した。

4. 機関誌「犯罪と非行」の発行事業(第5号事業)

平成22年度は、第164号から167号までの4号を発行。

発行部数は、毎号2,900部を発行した。

これらに要した費用1,714万円。

以上